

生物多様性保存型里山ビオトープの形成に関する事業  
(中間報告)

特定非営利活動法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会

富山県

1. 事業の概要	<p>原生的自然は少ないが、里山的自然が多く残る射水市において生物多様性・生態系の理念を啓発し、地域在来の動植物・希少動植物・絶滅危惧種の保存を図るとともに過疎化の進行による里山衰退を防ぎ地域の活性化を図る。</p> <p>本来射水丘陵に生息していたホクリクサンショウウオ（環境省レッドデータリストⅠ類B）等の保存を図る。</p>
2. 事業の目的・実施方法など	<p>(1) 事業の目的</p> <p>地球規模で進行する生物多様性・生態系の破壊に対応するために、2010 年に名古屋市で開催された第 10 回生物多様性条約締約国会議(COP10)において日本から提案された SATOYAMA イニシアティブが採択された。射水市入会地内の耕作放棄された農地や山林を活用し、減少しつつある希少動植物や地域在来動植物の保全を図り生物多様性豊かな里山ビオトープを形成する。</p> <p>●山中の耕作休止された棚田（隠田）を活用し両生類等が自然産卵できる里山ビオトープ池を造成する。</p> <p>(2) 実施方法</p> <p>A. 侵入竹や外来植物などに覆われ荒廃した山林において侵入竹を伐採し、地域在来種の広葉樹を植林し、植物相豊かな森林を造成する。</p> <p>B. カエルやサンショウウオ・イモリ等の両生類やトンボ・ホタル等の水中に産卵する昆虫類等の産卵池を確保するために山間地に年中水を湛える池や水路を造成し、地域在来生物の保存を図る。</p> <p>C. 里山の魅力・生物多様性の理念を発信するために自然観察会や自然環境セミナーなどを行い、子どもからシニア世代までの幅広い環境教育を行う。</p>

# ホクリクサンショウウオ調査報告

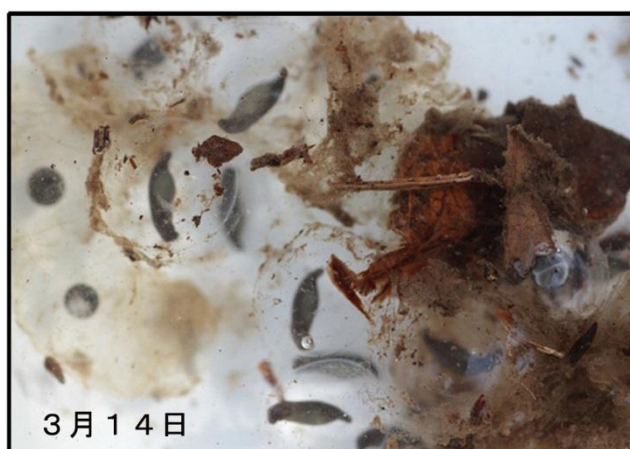
期間 令和7年1月～令和7年3月25日

調査地 射水市野手地区、射水市上野地区

調査は令和7年1月19日から始め、1月に4回、2月6回、3月に15回実施した。卵囊の初見は上野で2月19日、野手では2月28日。いずれも1対だった。野手では卵囊の成長過程を記録中である。(写真上段) 3月25日までに上野で29対、野手で3対確認。

3月20日、上野で見つけた3対が連なった卵囊の1つが白化状態であり、去年の白化卵と同様に見えることから今後の成長過程を注視している。(写真下段)

現在までの卵囊数は、上野は昨年より若干多く、野手は少ない状況になっている。まだ、産卵期間中なので最終確定ではない。



3対の卵囊の真中が白化卵



卵囊の拡大

今年はホクリクサンショウウオの成体を多く見る事が出来た。目視では11回。そのうち、採取できたのは、野手で1体、上野で5体。(別紙・写真)

3月10日に採取した2匹の中の1匹に奇形らしき変異を後日写真で見つける。左後足付け根に足らしき形状が見られた。突然変異か成長過程での事故による再生変異かは判別が難しい。

ただ、珍しい個体であることは確かなこと。採取時に変異を確認できればもっと詳しく変異点を調べられたはずであり、採取時の慎重な取扱いが必要だったと悔やまれる。(別紙・詳細写真)

また、25日に見つけた個体は左前足の指が欠損していた。外敵に襲われる、仲間との争い、事故によるものなどが考えられる。採取した6体の体長は10センチ前後だった。





3月1日

野手・第1池

水温 9度



3月9日 お腹が大きく  
ふくらむ

上野・側溝

水温 9度



3月10日

左後足に奇形

上野・側溝

水温 12度



3月10日

上野・側溝

水温 12度



3月12日

上野・池

水温 9度



3月25日

左前足指先欠損

上野・側溝

水温 12度



# ビオトープは両生類の産卵場所

ビオトープ周辺には多くの両生類が生息。その中で、**ホクリクサンショウウオ**、**クロサンショウウオ**、**ヒキガエル**、**モリアオガエル**、**ツチガエル**、**ヤマアカガエル**、**トノサマガエル**、**ニホンアマガエル**、**アカハライモリ**の9種を確認（赤字はビオトープで産卵）。この小さな水辺は、周辺に棲む両生類にとっては非常に貴重な産卵場所となっています。特に、ホクリクサンショウウオは、能登半島と富山県の一部にしか分布してない種です。県では、「指定希少野生動植物」とし、保護が必要との認識を示しています。里山の荒廃が進む現代にあって、両生類だけではなく、すべての生き物が困難に直面し、その対策が急がれます。当協会のビオトープ造成もその一環です。

## 金山地区・里山の象徴的な3種



ホクリクサンショウウオ・メス(10センチ)



池の浅い所の枯れ枝に絡みつく1対の卵囊



クロサンショウウオ・オス(16センチ)



水中の枝に付くゼリー状の卵囊



モリアオガエルの産卵



池の上に張り出した枝に生みつけられた卵塊





ヤマアカガエル



ヤマアカガエルの卵



ヒキガエル



ヒキガエルの卵



ムカシヤンマ



ミズカマキリ



アカハライモリ



オオコオイムシ

ビオトープの水辺にやってきた生きものたち



# ホクリクサンショウウオ生息調査



常に水がある湿った林を好む。



緩やかな流れの水路や湿地に  
1対の卵囊を産む。



1対の卵囊に80から100個の  
卵が入っている。



枯れ枝に卵囊をからませている。



枯れたスギの葉も上手に利用する。



50日ほど経過。



保護色で周囲の環境に溶け込む。